

13. 例題

代數 I

合同式に関する定理

定理m1

n を1より大きい整数とする. このとき, 任意の整数 a, b, c, d について, 次のことが成り立つ

- (1) 反射律: $a \equiv a \pmod{n}$
- (2) 対称律: $a \equiv b \pmod{n}$ ならば, $b \equiv a \pmod{n}$
- (3) 推移律: $a \equiv b \pmod{n}$ かつ $b \equiv c \pmod{n}$ ならば $a \equiv c \pmod{n}$
- (4) $a \equiv b \pmod{n}$ かつ $c \equiv d \pmod{n}$ ならば,
 $a \pm c \equiv b \pm d \pmod{n}, a \cdot c \equiv b \cdot d \pmod{n}$

定理m2

n を1より大きい整数とする. このとき, 任意の整数 m, a, b について,
 $d = (m, n), n = n'd, m = m'd$ とおくとき, 次のことが成り立つ

$$ma \equiv mb \pmod{n} \Leftrightarrow a \equiv b \pmod{n'}$$

とくに, $(m, n) = 1$ のとき, $ma \equiv mb \pmod{n} \Leftrightarrow a \equiv b \pmod{n}$

定理m3

a, b を整数, m, n を1より大きい整数とする. $(m, n) = 1$ であれば, 次のことが成り立つ
 $a \equiv b \pmod{m}, a \equiv b \pmod{n} \Leftrightarrow a \equiv b \pmod{mn}$

合同式に関する定理

定理m4

$(a, n) = 1$ ならば, $ax \equiv b \pmod{n}$ を満足する整数解 x が存在し,
 n を法としてただ一つである.

定理m5

$ax \equiv b \pmod{n}$ が解をもつための必要十分条件は $(a, n) | b$ となることである.

定理m6

合同方程式 $ax \equiv b \pmod{n}$ が解をもち $(a, n) = d > 1$ であるなれば,
解の個数は n を法として d 個である.

定理m7 (中国剰余の定理)

n_1, \dots, n_s を1より大きい整数とし, $(n_i, n_j) = 1 (i \neq j)$ とする.
このとき, 任意の整数の組 a_1, \dots, a_s に対して連立合同式
 $x \equiv a_1 \pmod{n_1}, \dots, x \equiv a_s \pmod{n_s}$
は, $n = n_1 \dots n_s$ を法として唯1つの解をもつ.

最大公約数, 最小公倍数

- 中国剰余定理(ユークリッドの互除法)
 - 2つの正整数 $a, b (a < b)$ において, 大きい数 b から小さい数 a を引いて

$$(a, b) = (a, b - a)$$

としても最大公約数は変わらない.

$$(a, b) = g, [a, b] = l$$

$$a, b = gl$$

合同式

5^{1221} を14で割った余り

131^{131} を7で割った余り

123^{123} を14で割った余り

7^{2012} を10で割った余り

